

開催日：令和 5 年 8 月 17 日

会議名：令和 5 年文教常任委員会（8 月 17 日）

○西本ちかこ 今回の視察を終えて、茨木市内の学校の先生からお話を聞く機会があったんですけども、学校の先生は不登校、学校に行かせることを、卒業まで自分たちで最後まで見ることができなかったっていうような、何といるんでしょう、そちらに行かせることを自分たちが責任を放棄したみたいな、最後まで自分の学校で卒業させるべきじゃないかっていうことを、すごく考えてらっしゃったんですね。

それってどうなのかなと、ご両親のほうからすると、今回も城之内先生もずっとおっしゃられていて、何度も何度も体験学習に来たりとかして、本当にここに来て、じゃあ元の学校の卒業証書はなくなりますよ、こちらの学校の卒業証書になりますよっていうことを何度も面談して、結局最後まで入学せずに体験のまま終えられた子もいましたっていうお話をお聞きして、だからすごく山下委員のおっしゃるように、何か決められた枠の中に、ちょっとすごく閉じ込められてるのかなという気がしまして、もっとオープンな考え方というか、子供たちの気持ちに寄り添った学びの場というか、考え方を考えていかないといけないのかなっていうふうに感じました。

○西本ちかこ 私もそうですね、同じく本当に職員の方の熱意というところで、本当に何度も何度も足を運んだと、いろんな箇所、市全体何度も足を運んで、理解してもらえるように取り組んだという、市の担当者の方の熱意が感じられました。

この条例は必要なんですかと言ったときに、やはりその条例という枠組みがあって、だからこそいろいろ取り組みやすいっていうことがあるとおっしゃってました。

それであと、文化芸術っていうのが特別なものではなくって、暮らしの中にあるっていう言葉が印象に残ってます。

ですので、福祉や子育て、そういったことに予算をもっとかければいいのではないかと、文化芸術よりそっちなんじゃないかっていうことではなくて、暮らしの中にあるんだよと、それが暮らしを豊かにしていくんだよということを、本当に、市民の皆さんに熱意を持って、自ら出向かれて何か所も説明をしていかれたという、それで市全体に文化芸術を広げていくっていうことを学ばせていただきました。

○西本ちかこ 私としても、その条例があるかないかでのその差というところについて、学んでいきたいと思っています。